



【お問い合わせ】

独立行政法人国立女性教育会館 研究国際室

室長 中野 洋恵

担当 飯島 絵理

〒 355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728

電話 0493 (62) 6437 FAX 0493 (62) 9034

Eメール fellow@nwec.jp

* 調査結果については、下記 URL も合わせてご参照ください。
<https://www.nwec.jp/research/hqtuvq0000002ko2.html>

「学校教員のキャリアと生活に関する調査」結果の概要

調査の概要

1 調査の趣旨および目的

初等中等教育における女性教員は、教員全体に占める割合に比べて管理職に占める割合が極めて低く、学校経営や地域づくりにかかわる意思決定過程に必ずしも十分には参画できていない。本調査は、この問題に関連する男女教員の職場環境や管理職に関する意識、性別役割分担意識等の実態を明らかにすることを目的とする。得られた結果は、女性教員の管理職登用やキャリア形成のあり方、男女教員の働き方等、男女共同参画に係る課題の解決に向けた政策提言や研修に活かす。

2 調査名 「学校教員のキャリアと生活に関する調査」

3 調査対象 公立小学校・中学校本務教員

(ただし、養護教諭、栄養教諭、助教諭、講師、休職・育児休暇中の教員を除く)

4 調査方法 ウェブ調査 (事前に都道府県・政令市教育委員会を通して対象校に協力を依頼した上で実施)

5 実施期間 平成 30 年 1 月 16 日～ 2 月 23 日

6 標本抽出方法

層化集落抽出法

校長の性別・都市規模・学校規模・教員数・女性教員割合を層として、平成 29 年度学校基本調査の個票データから小学校 1,500 校、中学校 1,500 校をそれぞれ抽出し、選ばれた学校の本務教員全員を対象とした。選ばれた学校に在籍する本務教員数は小学校 28,918 人、中学校 32,486 人※。

※調査対象外である休職・育児休業中の教員を含む

7 有効回答数

小学校教員有効回答数 11,602 人 (40.1%※) 女性 6,926 人 男性 4,676 人

中学校教員有効回答数 12,215 人 (37.6%※) 女性 5,143 人 男性 7,072 人

※在籍する本務教員数に対する有効回答数の割合

小学校回答数 (一人でも回答した学校の数) 1,163 校 (77.5%)

中学校回答数 (一人でも回答した学校の数) 1,211 校 (80.7%)

8 集計方法 回収されたデータにウェイトをつけて、全国レベルでの推定を可能としている。

調査結果のポイント

1 ○教員の94.3%は仕事にやりがいを感じ、教員の87.1%は、全体としてみれば、現在の仕事に満足している。

- ・『仕事にやりがいを感じる』に「あてはまる」「どちらかというにあてまはる」と回答した教員の割合は94.3%（女性94.8%、男性93.5%）であり、『全体としてみれば、現在の仕事に満足している』については87.1%（女性87.0%、男性87.4%）であった。
- ・『自分は児童生徒や学校のために貢献している』に「あてはまる」「どちらかというにあてまはる」と回答した教員の割合は92.9%（女性92.0%、男性94.0%）であり、『自分の持っている能力を十分に発揮できている』については83.9%（女性83.6%、男性84.3%）であった。
- ・管理職になって「とてもよかった」「どちらかというよかった」と回答した管理職の割合は91.6%（女性88.4%、男性92.3%）であり、校長（97.0%）のほうが副校長・教頭（86.7%）より割合は高かった。
- ・一方で『慢性的に疲れを感じている』に「あてはまる」「どちらかというにあてまはる」と回答した教員の割合は80.1%（女性85.1%、男性74.6%）であり、小学校（79.3%）と中学校（81.5%）のいずれにおいても女性教員（小学校84.3%、中学校87.0%）のほうが男性教員（小学校71.8%、中学校77.9%）より割合は高かった。

2 ○1日の平均在職場時間（休憩時間を含む）が12時間以上となる教員の割合は40.8%であり、小学校は36.2%、中学校は49.0%であった。特に副校長・教頭はその割合が他の職位より高く、小学校で74.5%、中学校で81.3%であった。
○中学校では女性教諭の15.6%、男性教諭の31.9%が「ほぼ全部の土日・祝日」仕事のために外出している。

- ・1日の平均在職場時間（休憩時間を含む）が12時間以上と回答した教員の割合は40.8%（女性36.5%、男性45.7%）であった。教諭では、その割合は男女とも中学校（女性43.9%、男性52.4%）のほうが小学校（女性32.5%、男性39.5%）より高かった。
- ・管理職のうち副校長・教頭は、1日の平均在職場時間が12時間以上となる割合が76.7%であり、他の職位（校長17.2%、主幹・指導教諭41.2%、教諭40.0%）より高かった。校種別にみると、その割合は小学校では74.5%（女性78.0%、男性73.5%）、中学校では81.3%（女性82.9%、男性81.1%）であった。
- ・中学校では、「ほぼ全部の土日・祝日」に学校の仕事のために外出している教諭の割合は24.7%（女性15.6%、男性31.9%）であり、「月に5～6回」も合わせると53.0%（女性36.2%、男性66.3%）と半数を超えていた。

3 ○子供が未就学から小学生の時期に、女性教員の79.4%は家事・育児等の半分以上を担っている（た）。男性教員ではその割合は3.5%であった。

- ・国民全体で見られる傾向と同様、家庭生活における役割については女性の負担が大きい。子供が未就学から小学生の時期に、家事・育児等を「ほとんどあなたがしている（した）」「半分以上はあなたがしている（した）」と回答した教員の割合は、女性は79.4%（校長81.9%、副校長・教頭82.8%、主幹・指導教諭79.8%、教諭79.2%）であり、男性の3.5%（校長1.5%、副校長・教頭1.8%、主幹・指導教諭4.8%、教諭4.1%）よりかなり高かった。

- 4 ○管理職になりたいと思う教員の割合は、女性 7.0%、男性 29.0%であった。
- 管理職になりたくない理由としては「担任を持って子どもと接していきたい」の割合が最も高い。特に女性のほうが男性より割合が高い項目は、「責任が重くなると、自分の家庭の育児や介護等との両立が難しい」「自分にはその力量がない」「労働時間が増えると、自分の家庭の育児や介護等との両立が難しい」であった。
- 「女性の管理職が増えるように考慮している」と思う管理職は 70.9%であった。
- 約半数の管理職が、育児や介護等を担う教員には管理職になるための試験や研修を勧めにくいとしている。
- 管理職になった理由としては「やりがいのある仕事ができると思ったから」の割合が最も高い。女性管理職は「所属長の薦めを受けたから」の割合が最も高く、また男性管理職の割合より高かった。

- ・将来、管理職に「ぜひになりたい」「できればになりたい」と回答した教員の割合は、女性（7.0%）のほうが男性（29.0%）より低かった。
- ・管理職になりたくない理由としては「担任を持って子どもと接していきたい」（63.5%）、「自分にはその力量がない」（61.2%）、「現在の仕事に満足している」（55.7%）の割合が高い。特に女性のほうが男性より割合が高い項目は「責任が重くなると、自分の家庭の育児や介護等との両立が難しい」（女性 51.5%、男性 34.9%）、「自分にはその力量がない」（女性 66.9%、男性 51.5%）、「労働時間が増えると、自分の家庭の育児や介護等との両立が難しい」（女性 48.4%、男性 38.1%）であった。
- ・『女性の管理職が増えるように考慮している』に「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した管理職の割合は 70.9%であった。
- ・一方で、『育児や介護等の家庭の負担を担っている女性教員には、管理職になるための試験の受験や研修等を勧めにくい』に「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した管理職の割合は 54.8%であった。同様の状況にある『男性教員』に対しては 46.5%であった。
- ・管理職になった理由としては「やりがいのある仕事ができると思ったから」（75.3%）、「所属長の薦めを受けたから」（65.7%）、「学校経営に関心があったから」（57.5%）の割合が高い。女性管理職（76.2%）は「所属長の薦めを受けたから」の割合が最も高く、また男性管理職（63.5%）の割合より高かった。

- 5 ○「男性のほうが女性より管理職に向いている」と「思わない」教員の割合は 74.2%、「思う」教員の割合は 25.7%であった。
- 年齢が若いほど「男性のほうが女性より管理職に向いている」と考える傾向にある。

- ・『男性のほうが女性より管理職に向いている』に「そう思わない」「あまりそう思わない」と回答した教員の割合は 74.2%であった。一方、「そう思う」「ややそう思う」と回答した教員の割合は 25.7%であり、女性（29.7%）のほうが男性（21.3%）より割合はやや高い。若い教員ほどその割合が高く、女性（20代 34.2%、30代 32.3%、40代 30.5%、50代 25.1%）によりその傾向が見られる。
- ・『理数系の教科は、男子児童生徒のほうが能力が高い』に「そう思わない」「あまりそう思わない」と回答した教員の割合は 77.2%であった。一方、「そう思う」「ややそう思う」と回答した教員の割合は 22.8%であり、女性（25.6%）のほうが男性（19.7%）より割合はやや高い。さらに女性（20代 31.8%、30代 26.9%、40代 25.2%、50代 21.7%）と男性（20代 27.2%、30代 24.9%、40代 16.3%、50代 15.0%）のいずれにおいても、若い教員ほど割合が高い傾向にある。

調査結果の概要

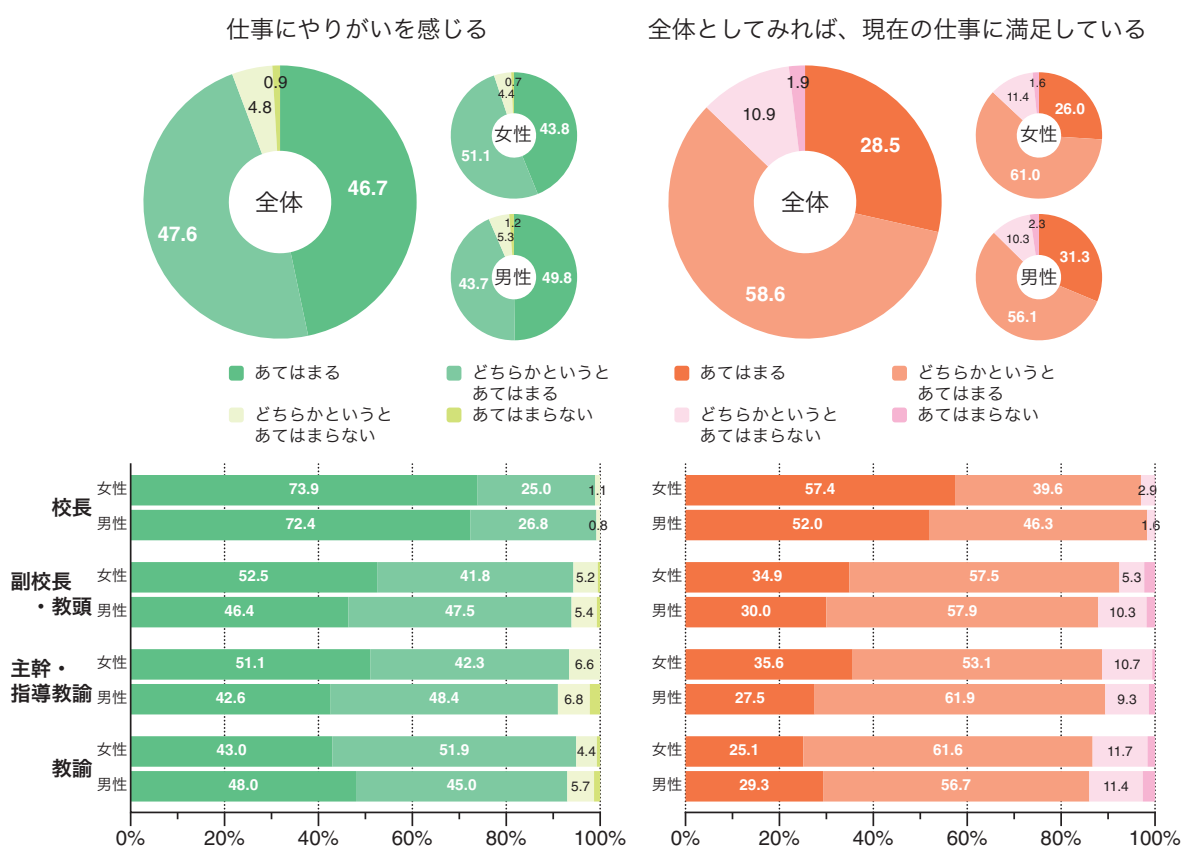
1 やりがい・満足度、自己効力感、疲労感

(1) やりがい・満足度

仕事に対するやりがいや満足度は総じて高い。『仕事にやりがいを感じる』の項目について、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した割合は、94.3%（女性94.8%、男性93.5%）で男女とも9割を超える。『全体としてみれば、現在の仕事に満足している』の項目についても、87.1%（女性87.0%、男性87.4%）と8割を超える。

職位別に見ると、やりがいと満足度について、男女ともに校長は他の職位に比べて「あてはまる」の占める割合が高い（やりがい：女性校長73.9%、女性副校長・教頭52.5%。男性校長72.4%、男性副校長・教頭46.4%。満足度：女性校長57.4%、女性副校長・教頭34.9%。男性校長52.0%、男性副校長・教頭30.0%）。

図1 「仕事にやりがいを感じる」「全体としてみれば、現在の仕事に満足している」

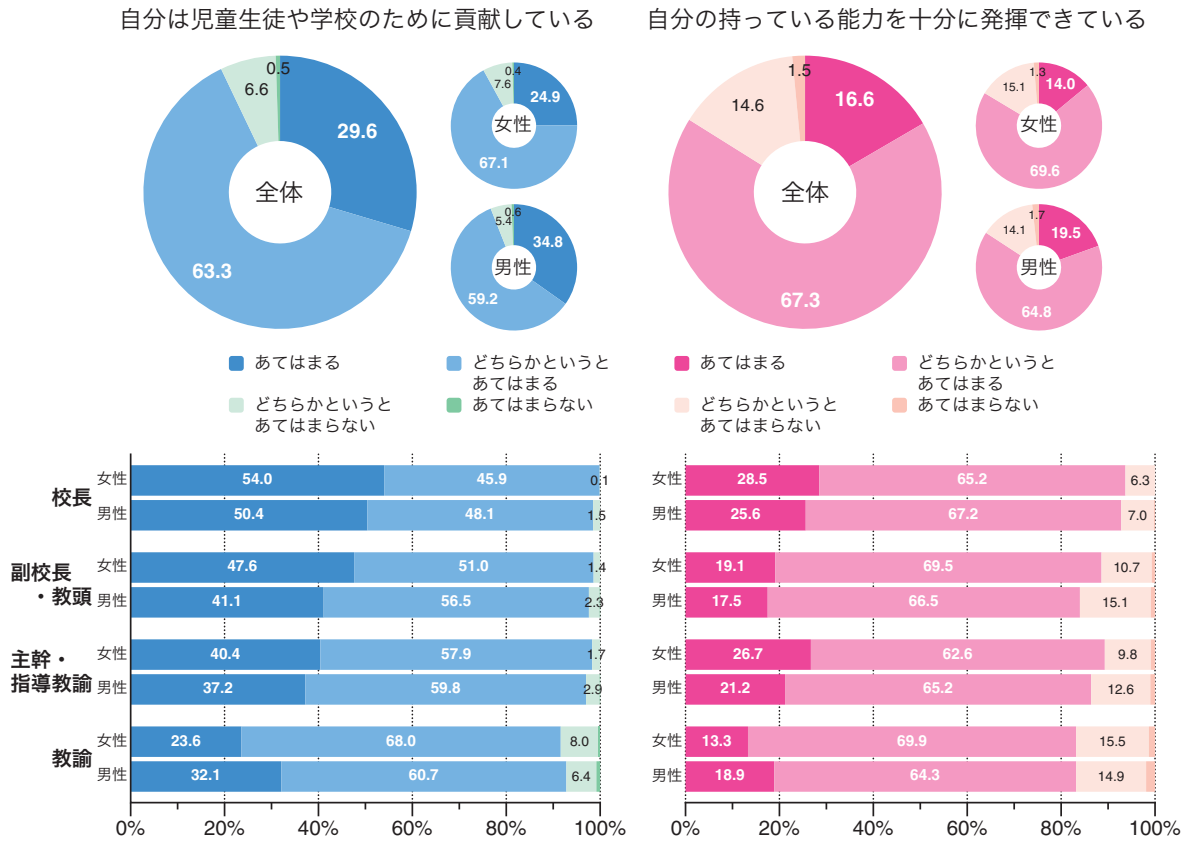


(2) 自己効力感

貢献度や能力発揮についての自己効力感は総じて高い。『自分は児童生徒や学校のために貢献している』の項目に「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した割合は男女とも高く、女性教員は92.0%、男性教員は94.0%である。『自分の持っている能力を十分に発揮できている』の項目も、女性教員は83.6%、男性教員は84.3%と高い。

職位別に見ると、男女ともに校長は他の職位に比べて「あてはまる」の占める割合が高い。（貢献度：女性校長54.0%、女性副校長・教頭47.6%。男性校長50.4%、男性副校長・教頭41.1%。能力発揮：女性校長28.5%、女性副校長・教頭19.1%。男性校長25.6%、男性副校長・教頭17.5%）。

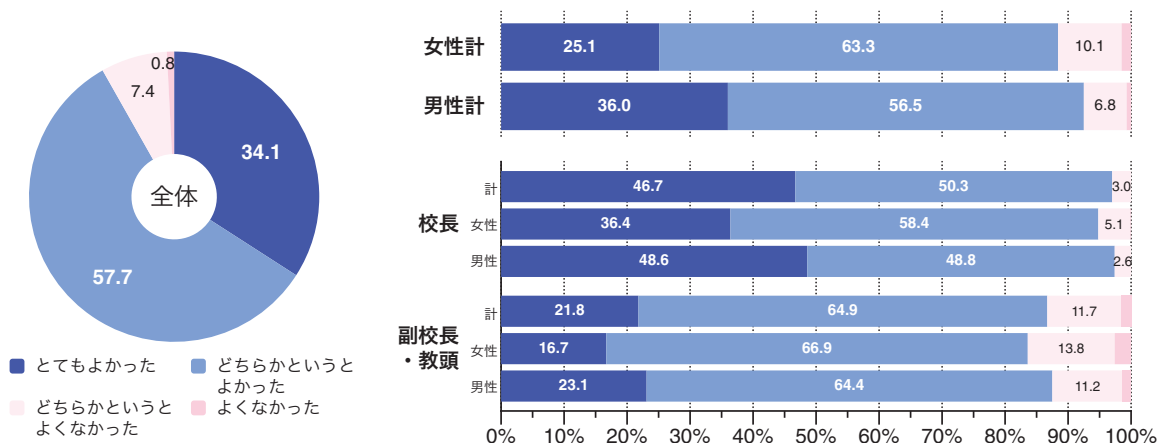
図2 「自分は児童生徒や学校のために貢献している」「自分の持っている能力を十分に発揮できている」



(3) 管理職になってよかったか (管理職への問)

管理職になって「とてもよかった」「どちらかというよかった」と回答した割合は、男女とも高く、女性管理職は88.4%、男性管理職は92.5%である。また、校長(97.0%、女性94.8%・男性97.4%)のほうが副校長・教頭(86.7%、女性83.6%・男性87.5%)より高い。

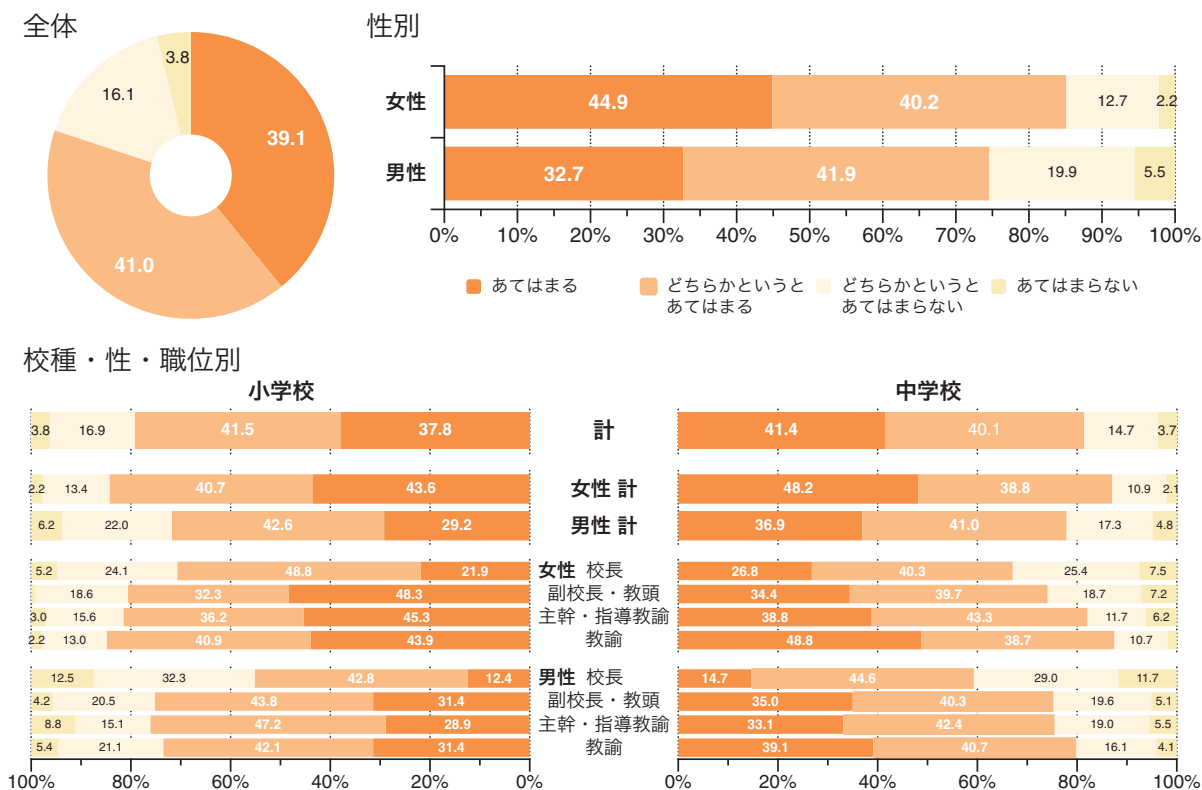
図3 管理職になってよかったですか



(4) 疲労感

『慢性的に疲れを感じる』に「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した教員の割合は80.1%（女性85.1%、男性74.6%）であり、小学校（79.3%）と中学校（81.5%）のいずれにおいても女性教員（小学校84.3%、中学校87.0%）のほうが男性教員（小学校71.8%、中学校77.9%）より割合は高かった。職位別にみると、男女ともに校長より校長以外のほうが、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した割合が高い。

図4 慢性的に疲れを感じる



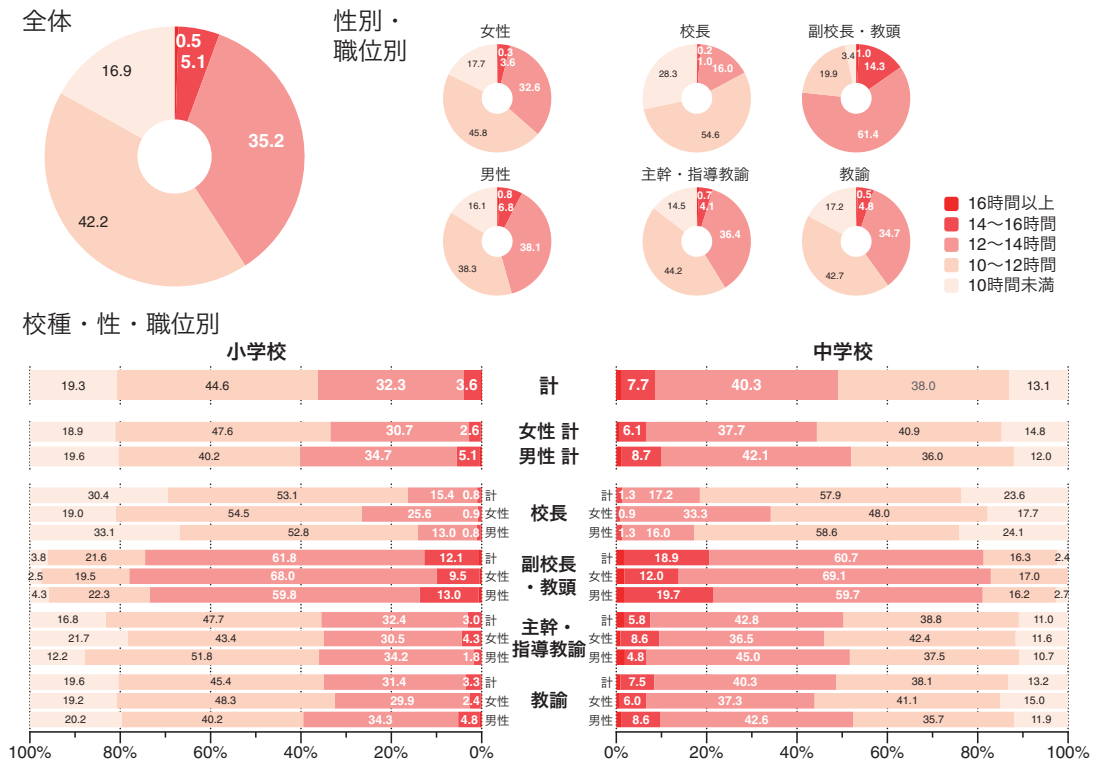
2 労働時間

(5) 平均的な1日の在職場時間（休憩時間含む）

平均的な1日の在職場時間（休憩時間含む）が、12時間以上の女性教員は36.5%、男性教員は45.7%である。校種別にみると、男女にかかわらず副校長・教頭の割合が高く、小学校では74.5%、中学校では81.3%である。

どの職位においても、小学校より中学校のほうが12時間以上の割合が高い。女性教諭では、小学校では32.5%に対し中学校では43.9%、男性教諭では、小学校39.5%に対し中学校では52.4%である。

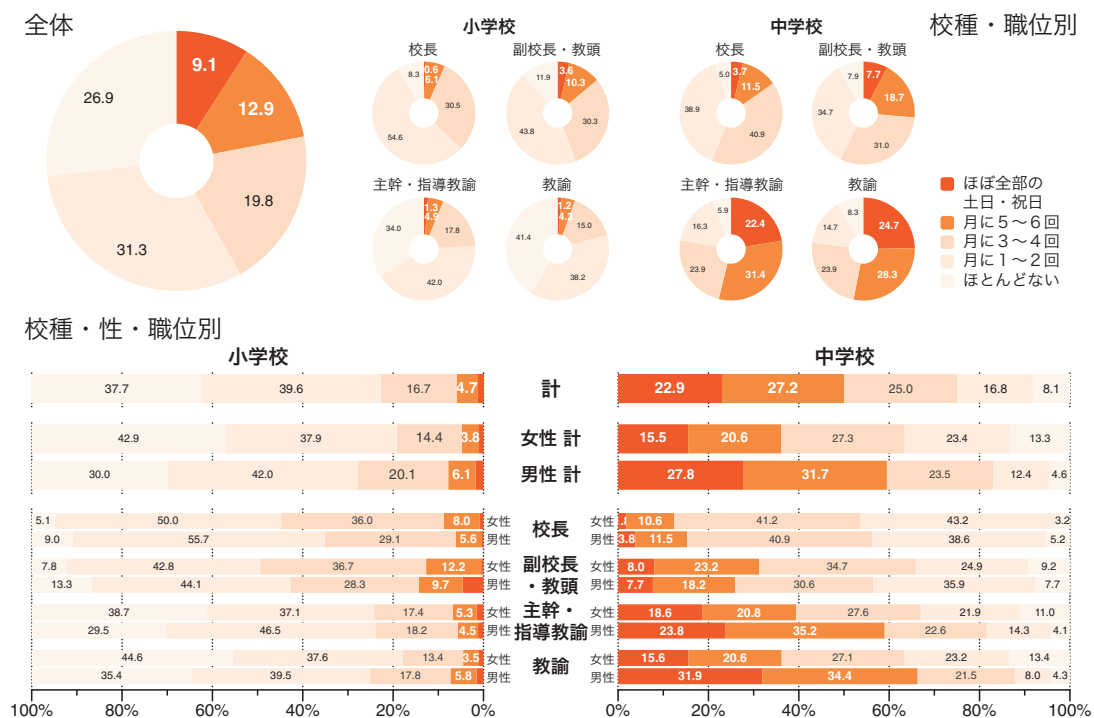
図5 平均的な1日の在職場時間は何時間ですか



(6) 一月にどの程度、休日に学校の仕事のために外出しているか

仕事のための休日の外出は、特に中学校において頻度が高い回答が多い。「ほぼ全部の土日・祝日」と答えた割合は、中学校の主幹・指導教諭は22.4%（女性18.6%、男性23.8%）であり、教諭は24.7%（女性15.6%、男性31.9%）である。小学校では、管理職のほうが管理職以外よりも頻度が高い回答が多いが、中学校では、管理職以外のほうが頻度が高い回答が多い。

図6 平均すると、月にどの程度、休日に学校の仕事のために外出していますか（部活動、試合や大会の引率、地域行事の参加等）



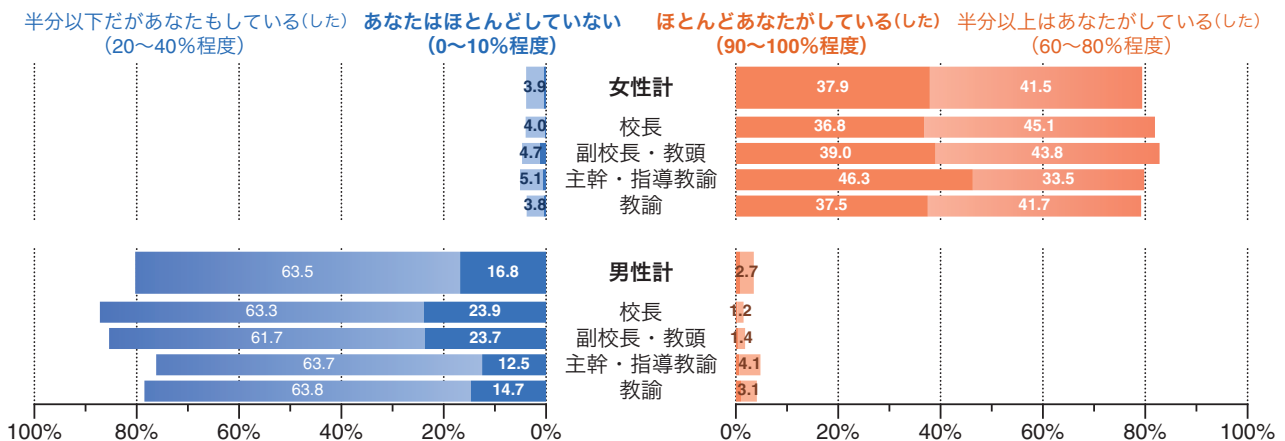
3 家庭生活

(7) 家庭生活における家事・育児等の分担

国民全体で見られる傾向と同様、子供が未就学から小学生の時期の家庭生活における役割については、女性の負担が大きい。「ほとんどあなたがしている(した)」「半分以上はあなたがしている(した)」を合わせると、女性教員は79.4%に対し男性は3.5%である。「ほとんどあなたがしている(した)」と回答した女性の割合は37.9%である一方、「あなたはほとんどしていない」男性は16.8%である。

職位別にみると、どの職位においても、女性は家事・育児等の負担をおっている。「ほとんどあなたがしている(した)」「半分以上はあなたがしている(した)」女性は、校長は81.9%、副校長・教頭は82.8%、主幹・指導教諭は79.8%、教諭は79.2%である。男性は、管理職のほうが「あなたはほとんどしていない」と回答した割合が10ポイントほど高い。

図7 子供が未就学児から小学生の時期に家事・育児等、家庭生活の役割をどの程度担っている(た)か



注1) 一番下の子供が12歳以下の回答者の現在についての回答と、13歳以上の子供を持つ回答者の過去についての回答を合算して算出

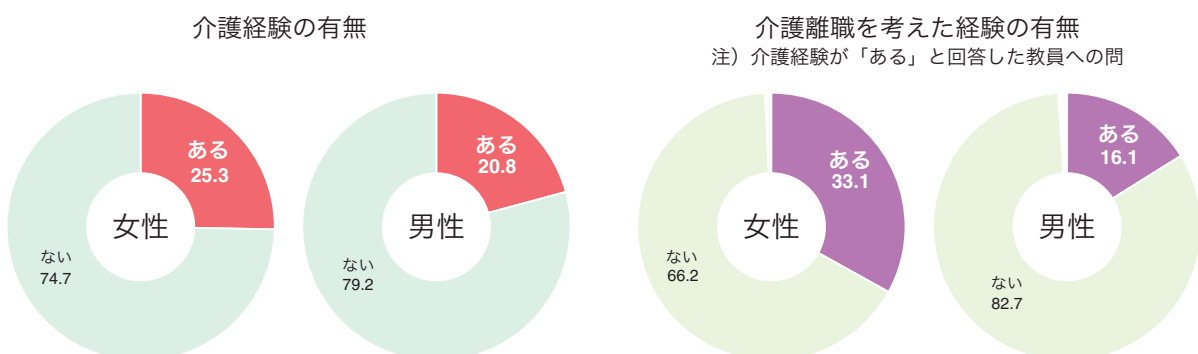
注2) 「ほとんどあなたがしている(した) (90~100%)」「半分以上はあなたがしている(した) (60~80%)」「ほぼ半分あなたがしている(した) (50%)」「半分以下だがあなたもしている(した) (20~40%)」「あなたはほとんどしていない (0~10%)」のうち1つを選んで回答

(8) 介護経験の有無および介護離職を考えた経験

家族を介護した経験が「ある」と回答した割合は、女性は25.3%、男性は20.8%である。また、介護経験が「ある」と答えたこれらの回答者のうち、今までに介護を理由に仕事を辞めることを考えたことが「ある」と回答した割合は、女性は33.1%、男性は16.1%である。

なお、総務省統計局「平成29年就業構造基本調査」によると、介護・看護を理由とする離職者数は、平成28年10月~平成29年9月において約9.9万人。女性が75.8%、男性が24.2%である。

図8 「ご家族の介護の経験はありますか」
「いままでに、介護を理由に仕事を辞めることを考えたことはありますか」

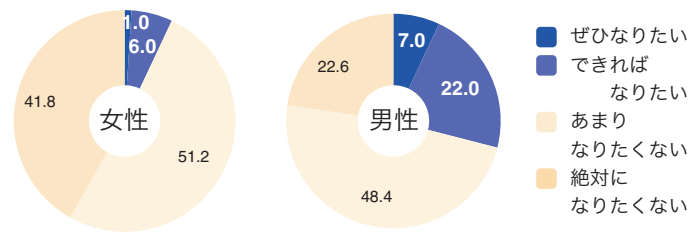


4 管理職志向

(9) 管理職になりたいと思うか (管理職以外への問)

将来、管理職に「ぜひになりたい」「できればになりたい」と思う教員の割合は、女性は7.0%、男性は29.0%であり、女性のほうが低い。女性教員の93.0%が「あまりなりたくない」「絶対になりたくない」と回答している。

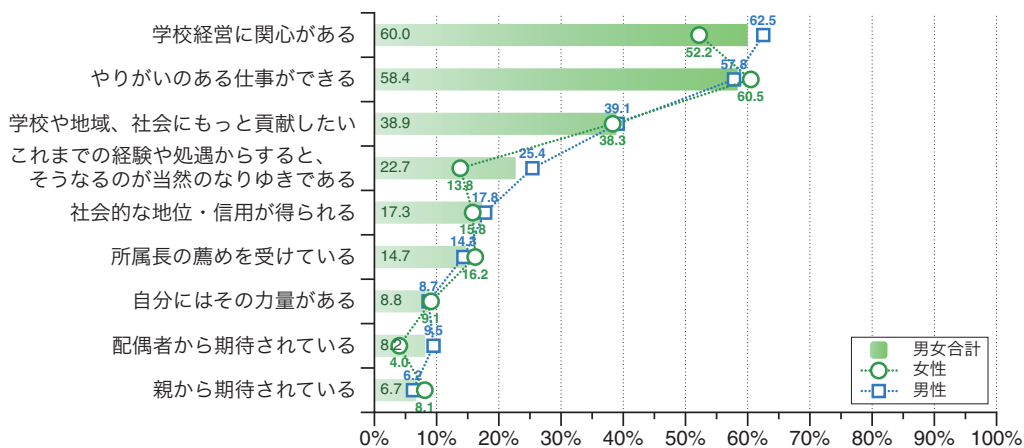
図9 あなたは将来、管理職になりたいと思いますか



(10) 管理職に「ぜひになりたい」「できればになりたい」理由 (管理職以外への問)

管理職に「ぜひになりたい」「できればになりたい」理由として選ばれた割合が半数を超える項目は「学校経営に関心がある」(60.0%)、および「やりがいのある仕事ができる」(58.4%)である。特に女性教員と男性教員の割合に差がある項目は、「これまでの経験や処遇からすると、そうなるのが自然のなりゆきである」(女性13.8%、男性25.4%)、「学校経営に関心がある」(女性52.2%、男性62.5%)の2つで、ともに女性教員より男性教員のほうが割合が高い。

図10 「ぜひになりたい」「できればになりたい」理由は何ですか (複数回答)

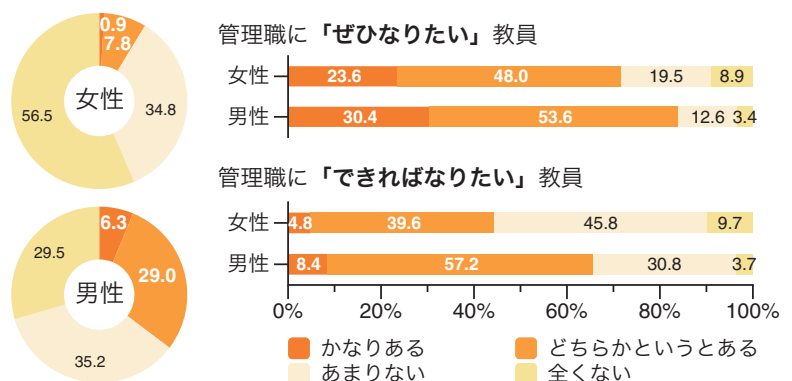


(11) 管理職志向と管理職になる可能性についての自己認識 (管理職以外への問)

将来、管理職になる可能性が「かなりある」「どちらかというところ」と回答した女性教員は8.7%、男性教員は35.3%であった。

管理職に「ぜひになりたい」と回答した女性教員の71.6%、男性教員の84.0%が管理職になる可能性が「かなりある」「どちらかというところ」と回答する一方、女性教員の28.4%、男性教員の16.0%が「あまりない」「全くない」と回答した。管理職に「できればになりたい」の回答では、女性教員の44.4%、男性教員の65.6%が管理職になる可能性が「かなりある」「どちらかというところ」と回答する一方、女性教員の55.5%、男性教員の34.5%が「あまりない」「全くない」と回答した。

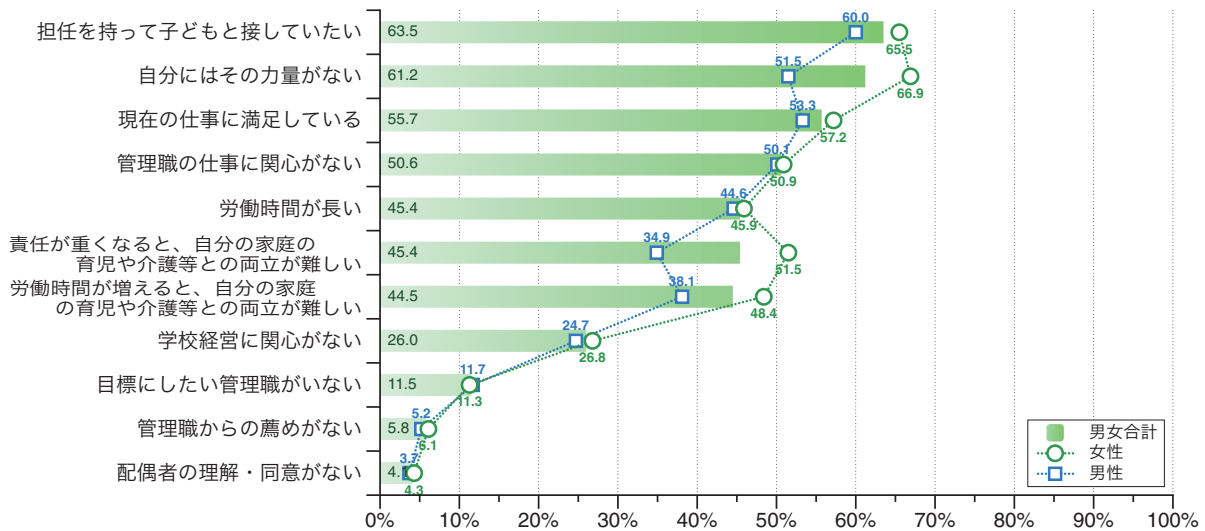
図11 あなたは、将来、管理職になる可能性はどの程度あると思いますか



(12) 管理職に「あまりなりたくない」「絶対になりたくない」理由（管理職以外への問）

管理職に「あまりなりたくない」「絶対になりたくない」理由としては「担任を持って子どもと接していきたい」(63.5%)、「自分にはその力量がない」(61.2%)、「現在の仕事に満足している」(55.7%)の割合が高い。特に女性のほうが男性より割合が高い項目は「責任が重くなると、自分の家庭の育児や介護等との両立が難しい」(女性51.5%、男性34.9%)、「自分にはその力量がない」(女性66.9%、男性51.5%)、「労働時間が増えると、自分の家庭の育児や介護等との両立が難しい」(女性48.4%、男性38.1%)であった。

図 12 「あまりなりたくない」「絶対になりたくない」理由は何ですか（複数回答）



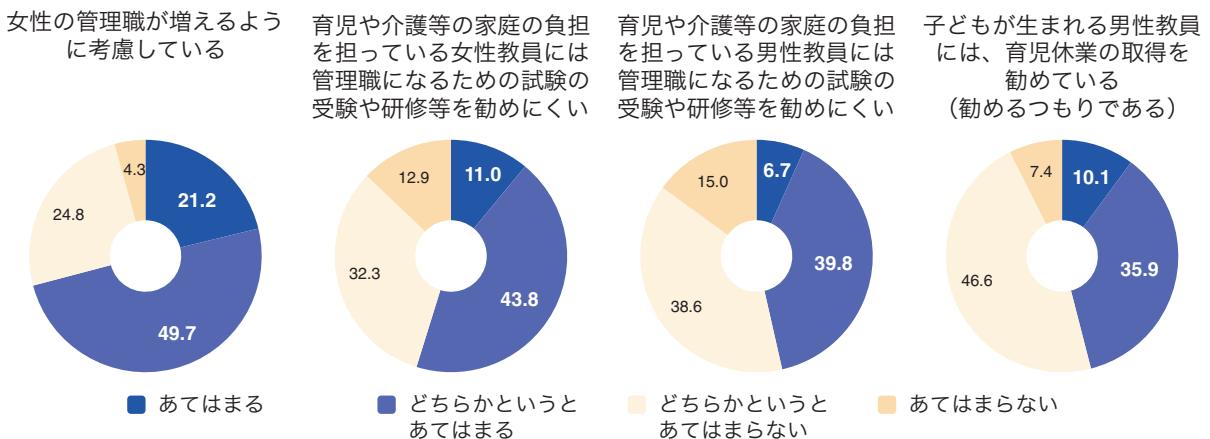
(13) 教員に対する管理職としての姿勢・態度（管理職への問）

『女性の管理職が増えるように考慮している』の項目に、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した管理職の割合は70.9%であった。

『育児や介護等の家庭の負担を担っている女性教員には、管理職になるための試験の受験や研修等を勧めにくい』の項目について54.8%の管理職が「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した。一方で、『育児や介護等の家庭の負担を担っている男性教員には、管理職になるための試験の受験や研修等を勧めにくい』の項目については、46.5%が「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した。

『子どもが生まれる男性教員には、育児休業の取得を勧めている（勧めるつもりである）』の項目について、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した割合は、46.0%であった。

図 13 教員に対する管理職としての姿勢・態度（管理職への問）

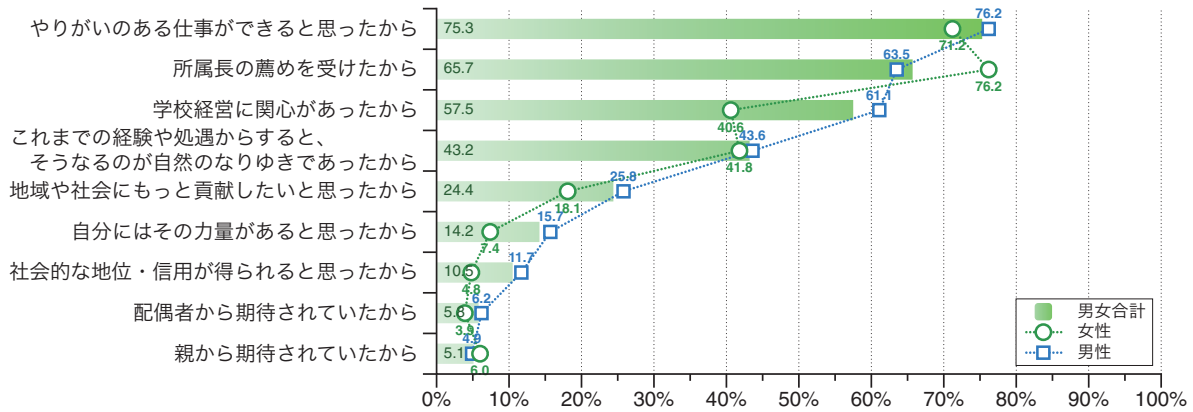


注) 管理職男女計の割合

(14) 管理職になった理由（管理職への間）

管理職になった理由としては「やりがいのある仕事ができると思ったから」（75.3%）、「所属長の薦めを受けたから」（65.7%）、「学校経営に関心があったから」（57.5%）の割合が高い。「所属長の薦めを受けたから」の割合は女性管理職（76.2%）のほうが男性管理職（63.5%）より高く、「学校経営に関心があったから」の割合は男性管理職（61.1%）のほうが女性管理職（40.6%）より高かった。

図 14 あなたが管理職になったのはなぜですか（複数回答）



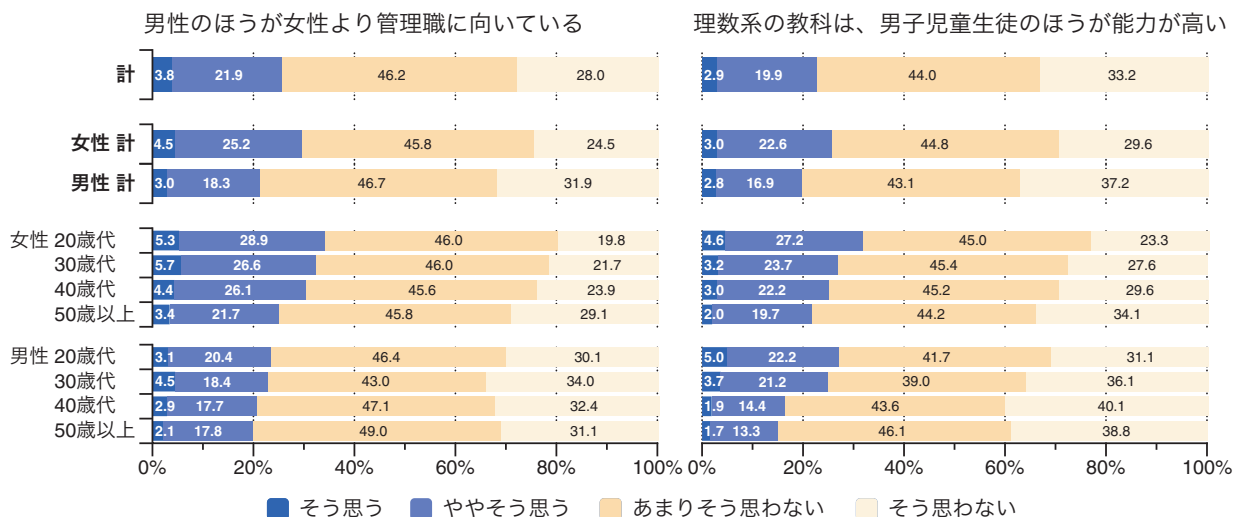
5. 性別役割分担意識

(15) 性別役割分担意識

管理職の向き不向きにかかわる性別役割分担意識について、『男性のほうが女性より管理職に向いている』に「そう思わない」「あまりそう思わない」と回答した教員の割合は74.2%であった。一方、「そう思う」「ややそう思う」の割合は25.7%であり、女性（29.7%）のほうが男性（21.3%）より割合はやや高い。若い教員ほど割合が高い傾向にある。

理数系教科の能力にかかわる性別役割分担意識について、『理数系の教科は、男子児童生徒のほうが能力が高い』に「そう思わない」「あまりそう思わない」と回答した教員の割合は77.2%であった。一方、「そう思う」「ややそう思う」の割合は22.8%であり、女性（25.6%）のほうが男性（19.7%）より割合はやや高い。女性（20代31.8%、30代26.9%、40代25.2%、50代21.7%）と男性（20代27.2%、30代24.9%、40代16.3%、50代15.0%）のいずれにおいても、若い教員ほど割合が高い傾向にある。

図 15 「男性のほうが女性より管理職に向いている」
「理数系の教科は、男子児童生徒のほうが能力が高い」



参考 初等中等教育における女性管理職率の現状

初等中等教育における女性教員の割合は、小学校では半数を超え 62.5%、中学校は 43.5%、高校は 33.2%です（「平成 29 年度学校基本調査」）。これらの割合に比べると、女性の管理職率は低く、特に学校での意思決定権を持つトップである校長の割合は増加傾向にあるものの、小学校 19.3%、中学校 6.6%、高校 7.5%と低くなっています（表 1）。

表 1 校種別 初等中等教育における女性管理職率

	小 学 校			中 学 校			高 校		
	男	女	女性比率	男	女	女性比率	男	女	女性比率
教員計	154,674	257,224	62.4	131,708	101,539	43.5	106,675	53,022	33.2
校長	15,546	3,727	19.3	8,516	597	6.6	3,083	251	7.5
副校長	1,244	573	31.5	827	119	12.6	552	50	8.3
教頭	13,776	4,299	23.8	8,032	933	10.4	3,694	393	9.6

出所：「平成 29 年度学校基本調査」より作成

「学校教員のキャリアと生活に関する調査」検討委員（2018 年 11 月現在）

大竹 美登利	東京学芸大学名誉教授
高林 直人	静岡県立浜松商業高等学校教諭
土屋 隆裕	横浜市立大学データサイエンス学部教授
平林 久美子	全国公立小・中学校女性校長会会長／墨田区立両国小学校校長
渡部 誉	西条市教育委員会指導部学校教育課副課長兼スマートスクール推進係長
中野 洋恵	国立女性教育会館研究国際室長
島 直子	国立女性教育会館研究国際室研究員
飯島 絵理	国立女性教育会館研究国際室研究員